

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## □会議・プログラム等予定

### 「愛の帯を締めて」

— 私たちが追い求めるもの —

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「愛はすべてを完全に結ぶ帯です」(コロサイ3:14)

年明け早々、航空機の事故や能登半島での地震と津波が起り、たくさんの方が犠牲となり、今も困難な状況の中で必死に生活をされています。逝去された方々の魂の平安、被災された方々の安全と生活の回復を心よりお祈り申し上げます。必要な所に適切な支援が届けられますように協力していきたいと思えます。

2月14日からは、大齋節が始まります。今年は「愛はすべてを完全に結ぶ帯です」がテーマ聖句となっています。この前後に記されたコロサイの信徒への手紙のみ言葉を拾ってみますと、「あなたがたは神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。(3:12)、互いに耐え忍び、不満を抱くことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。(3:13)、これらすべての上に、愛を着けなさい。(3:14)、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。感謝する人になりなさい。(3:15)」とあります。

私たちの行動や思いのすべての上に、愛を身に着けることが、キリストの平和を生きる秘訣ということのようです。イエスさまが十字架と復活へと向かう歩みによって示され、愛の核心について記されたこれらのみ言葉は、私たちの究極の目標であり理想だと思えます。帯のようにしなやかで、私たちの身を引き締めるもの、美しく様々なものに再利用できる素敵な素材でもあります。このような変幻自在で柔軟性がある心持が、聖公会の中道性の豊かさであることも重なってくるのではないのでしょうか。教会はこうあるべき、聖公会の信仰はこうあるべき、クリスチャンはこうあるべきという頑なさから解放され、すべてのものを完全に結ぶ帯である「愛」という奥義を、私たちが追い求め続ける目標として掲げ、今年1年の歩みを起こしていきたいと思えます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(2024年1月25日以降・前回未掲載分)

#### 2023年12月

27日(水) 宣教協議会コールコミッテ  
会議 [Web]  
28日(木) 祈禱書改正委員会 [Web]

#### 2024年1月

21日(日) 青年委員会 [Web]  
25日(木) 日韓協働合同会議 [Web]  
26日(金) ハラスメント防止・対策研  
修会・西日本① [Web]  
29日(月) 聖公会センター検討チ  
ーム会議 [管区事務所]  
30日(火) 宣教協議会実行委員  
会 [Web]  
31日(水) ~2月1日(木) セーフ  
チャーチ・タスクチーム会議 [ナ  
ザレの家]

#### 2月

1日(木) 正義と平和・沖縄プロ  
ジェクト会議 [+Web]  
1日(木)・2日(金) 宣教協議会  
からの呼びかけ説明会 [Web]  
4日(日) 青年委員会 [Web]  
6日(火) ~8日(木) 定期主  
教会 [沖縄・名護]  
9日(金) 日韓協働委員会 [Web]  
12日(月) いのちをみつめる  
祈りの集い [Web]  
13日(火) 財政主査会 [管区  
事務所]  
15日(木) 主事会議 [管区  
事務所]  
15日(木) ハラスメント防止・  
対策研修会・東日本② [Web]  
16日(金) ハラスメント防止・  
対策研修会・中日本② [Web]  
17日(土) 原発のない世界を  
求める Zoom カフェ [Web]  
19日(月) 年金委員会 [管区  
事務所]  
20日(火) 常議員会 [管区  
事務所]  
22日(木) 正義と平和・原  
発問題プロジェクト会議 [Web]  
23日(金) ハラスメント防止・  
対策担当者会 [阿佐ヶ谷聖  
ペテロ教会]

※2月27日(火) は管区事務所一斉停電のため業務を休業いたします。よろしくお願いいたします。

†3月29日(金) は受書日のため、管区事務所の業務を休業いたします。よろしくお願いいたします。

(次頁へ続く)

□各教区

東京

- 第144(定期)教区会 2024年3月20日(水・休) 正午～17時半 開会聖餐式:聖アンデレ主教座聖堂 議場:聖アンデレホール

京都

- 「京都教区能登半島地震対策室」を立ち上げる  
 主の平和がありますように。  
 能登半島地震から一週間が経過しましたが、人的被害についての状況もまだ把握できていない状況です。引き続き覚え、祈りたいと思います。  
 京都教区では「京都教区能登半島地震対策室」を立ち上げました。  
 出口崇司祭(長)、松山健作司祭(現地牧師)、小林宏治司祭(総務局長)、奥晋一郎司祭(宣教局長)  
 現在は情報収集につとめ、私たちに出来るサポートを考えていき、必要な情報を皆様と共有していきたいと思ひます。  
 今後、教区内外の方々からの問い合わせ、ご提案、ご指摘等は当対策室が窓口となりますので、現場の教会や教役者への直接の連絡はくれぐれもお控えください。(1月8日現在)

※京都教区能登半島地震対策室

連絡先:司祭 出口 崇  
dgooooo117@gmail.com(メール)

- 献金ご送金の際は管区事務所宛てに、お手数でも「能登半島沖地震被災者支援」などご明記、あるいはその旨をご連絡の上、ご送金ください。京都教区の支援対策室の働きなど被災者支援のために用いさせていただきます。

神戸

- 阪神淡路大震災追悼記念聖餐式 2024年1月17日10時半～ 神戸聖ヨハネ教会 司式:主教 小林尚明 説教:主教 吉田雅人

沖縄

- 教区宣教70周年「教区の日」礼拝 2024年3月20日(水・祝)11時～ 主教座聖堂 三原聖ペテロ聖パウロ教会



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

(前頁より)

- 26日(月)～27日(火)各教区人権担当教会〔大阪・奈良〕
- 28日(水)祈禱書改正委員会〔聖公会神学院〕
- 29日(木)女性団体連絡協議会〔聖アンデレ教会ホール〕

3月

- 3日(日)青年委員会〔Web〕
- 4日(月)セーフ・チャーチ・タスクチーム会議〔管区事務所〕
- 4日(月)教役者遺児教育・建築金融資金運営委員会〔管区事務所〕
- 4日(月)ハラスメント防止・対策研修会・西日本②〔Web〕
- 5日(火)～7日(木)管区共通聖職試験〔各教区〕
- 6日(水)金融資産運用・管理チーム会議〔管区事務所〕
- 7日(木)ナザレ委員会〔ナザレの家〕
- 11日(月)いのちをみつめる祈りの集い〔Web〕
- 18日(月)収益事業委員会〔管区事務所〕
- 19日(火)エキュメニズム委員会〔Web〕
- 26日(火)管区共通聖職試験委員会〔Web〕

<関係諸団体会議・他>

- 1月25日(木)～26日(金)外キ協全国協議会・全国集会〔広島〕
- 25日(木)WCRP新春学習会〔立正佼成会〕
- 29日(月)NCC役員会〔Web〕
- 2月19日(月)～24日(土)聖公会国際典礼委員会〔韓国・ソウル〕
- 7日(水)NCC役員会〔Web〕
- 20日(火)～22日(木)9条世界宗教者会議〔沖縄〕
- 3月11日(月)～12日(火)NCC第42回総会〔Web〕
- 20日(水)沖縄教区宣教70周年「教区の日」礼拝〔沖縄〕

司祭 マリア山野繁子(東京教区・退) 2024年1月1日(月)逝去 (81歳)

司祭 ジョン・バーグ(John. Russell BERG)(退) 日本時間2024年1月21日(日)逝去於:英国 (87歳)

\*故ジョン・バーグ司祭経歴:  
1968年～2001年3月 横浜クライスト・チャーチ牧師、MtSチャプレン(MtS定年退職)。2001年4月～2004年3月 横浜クライスト・チャーチ牧師(70歳定年退職)。2010年8月～2015年9月 MtS神戸チャプレン(囑託として勤務)。

---

 ≪人事≫

## 東京

執事 ヤコブ萩原 充 2024年1月6日 公会の司祭に按手される。  
 司祭 ヤコブ萩原 充 2024年1月6日付 三光教会副牧師に任命する。

## 横浜

司祭 ヨハネ前田 浩 2024年3月31日付 定年により退職とする。  
 司祭 ヨハネ前田 浩(退) 2024年4月1日付 主教イグナシオ入江修管理のもとで横浜聖クリストファー教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)  
 ベタニヤ・ホーム聖ヒルダ礼拝堂チャプレンに委嘱する。

司祭 バルナバ大野清夫 2024年3月31日付 定年により退職とする。  
 司祭 バルナバ大野清夫(退)

2024年4月1日付 主教イグナシオ入江修管理のもとで市川聖マリヤ教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

主教 イグナシオ入江 修 2024年4月1日付 市川聖マリヤ教会管理牧師、鎌倉聖ミカエル教会管理牧師に任命する。

司祭 テモテ姜 暁俊 2024年3月31日付 小田原聖十字教会牧師、秦野聖ルカ教会管理牧師の任を解く。

2024年4月1日付 八日市場聖三一教会牧師、銚子諸聖徒教会管理牧師に任命する。

司祭 サムエル北澤 洋 2024年3月31日付 鎌倉聖ミカエル教会牧師、ベタニヤ・ホーム聖ヒルダ礼拝堂チャプレンの任を解く。

2024年4月1日付 小田原聖十字教会牧師、秦野聖ルカ教会管理牧師に任命する。

聖職候補生 ステパノ高野 洋

2024年3月31日付 横浜聖クリストファー教会の勤務を解く。  
 2024年4月1日付 鎌倉聖ミカエル教会管理牧師主教イグナシオ入江修のもとで勤務することを命じる。

聖職候補生 セバスチャン染谷孝章

2024年3月31日付 八日市場聖三一教会の勤務を解く。  
 2024年4月1日付 茂原昇天教会管理牧師主教イグナシオ入江修のもとで勤務することを命じる。  
 九十九里ホームチャプレン補佐を命じる。

司祭 ヤコブ三原一男(退) 2024年4月1日付 主教イグナシオ入江修管理のもとで逗子聖ペテロ教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

<信徒奉事者認可> 2023年12月14日付(任期1年)  
 (秦野聖ルカ教会) アンジェロ白井芳幸

---

**中部**

主教 ペテロ洪澤一郎(退) 2023年11月30日付 主教アシジのフランシス西原廉太のもとで高田降臨教会、また長野伝道区内各教会における主日礼拝等への協力の任を解く。

**京都**

司祭 マタイ出口 創 2023年12月31日付 主教座聖堂付および彦根聖愛教会礼拝協力の任を解く。  
2024年1月1日付 彦根聖愛教会副牧師に任命する。

アンデレ谷口 寛 2023年12月31日付 教務所主事の任を解く。  
サラ西井智子 2024年1月1日付 教務所主事に任命する。

司祭 サムエル門脇光禪 2024年3月31日付 津聖ヤコブ教会牧師の任を解く。  
2024年3月31日付 定年により退職とする。

司祭 ヨハネ石塚秀司 2024年3月31日付 主教座聖堂付および八木基督教会礼拝協力の任を解く。  
2024年3月31日付 定年により退職とする。

司祭 ヨハネ石塚秀司(退) 2024年4月1日付 八木基督教会での礼拝協力を委嘱する。(任期1年)

司祭 ヤコブ岩田光正 2024年4月1日付 津聖ヤコブ教会牧師に任命する。(伊勢聖マルコ教会牧師兼務)

主教 ステパノ高地 敬 2024年3月31日付 福井聖三一教会管理の委嘱を解く。  
司祭 アンデレ松山健作 2024年3月31日付 福井聖三一教会協働司祭の任を解く。  
2024年4月1日付 福井聖三一教会の管理を委嘱する。

司祭 ルカ柳原健之 2024年3月31日付 福井聖三一教会協働司祭の任を解く。  
聖職候補生 クララ小野恭子 2024年4月1日付 日本聖公会桑名エピファニー教会および日本聖公会四日市聖アンデレ教会管理牧師主教ステパノ高地敬のもとで勤務することを命じる。

司祭 モーセ石垣 進(退) 2024年4月1日付 主教ステパノ高地敬のもとで、岸和田復活教会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

司祭 テモテ宮嶋 眞(退) 2024年4月1日付 大阪教区からの要請を受け、桃山学院に嘱託のチャプレンとして出向することを許可する。(任期1年)

司祭 バルトロマイ三浦恒久(退) 2024年4月1日付 主教ステパノ高地敬のもとで、新宮聖公会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

司祭 アンデレ江渡由直(退) 2024年4月1日付 主教ステパノ高地敬のもとで、桑名エピファニー教会および四日市聖アンデレ教会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

司祭 セオドラ池本則子(退) 2024年4月1日付 主教ステパノ高地敬のもとで、橋本基督教会および笠田基督教会、五條聖三一教会にお

いて、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

### 神戸

司祭 ペテロパウロ柳本博人	2024年2月29日付 2024年3月1日付	神戸聖ミカエル教会牧師の任を解く 岡山聖オーガスチン教会牧師を任命する
司祭 パウロ上原信幸	2024年2月29日付 2024年2月29日付 2024年3月1日付	岡山聖オーガスチン教会牧師の任を解く 高松聖ヤコブ教会管理牧師の任を解く 高松聖ヤコブ教会牧師を任命する
司祭 マルコ藤井尚人	2023年12月31日付 2024年3月31日付 2024年4月1日付	大洲聖公会管理牧師の任を解く 松山聖アンデレ教会牧師の任を解く 姫路顕栄教会牧師を任命する
司祭 バルナバ瀬山会治	2024年2月29日付 2024年3月1日付	神戸昇天教会牧師の任を解く 神戸聖ミカエル教会牧師を任命する
司祭 ダビデ林 和広	2024年3月31日付	洲本真光教会管理牧師の任を解く
司祭 ヨシュア長田吉史	2024年2月29日付 2024年3月1日付	神戸聖ミカエル教会副牧師の任を解く 神戸昇天教会牧師を任命する
司祭 テモテ遠藤洋介	2024年3月31日付 2024年4月1日付	東北教区出向の任を解く 松山聖アンデレ教会牧師を任命する
執事 ルカ宮田裕三	2024年2月29日付 2024年3月1日付	徳島伝道区牧師補の任を解く 神戸聖ミカエル教会牧師補を任命する
主教 オーガスチン小林尚明	2024年4月1日付	洲本真光教会管理牧師の任を解く
司祭 ミカエル小南 晃	2024年3月31日付	定年により退職とする
司祭 デオヌシオ遠藤雅巳	2024年3月31日付	定年により退職とする
司祭 デオヌシオ遠藤雅巳(退)	2024年4月1日付	小林主教のもと神戸聖ペテロ教会の嘱託司祭として勤務することを委嘱する(任期1年)

### 九州

司祭 ミカエル李 相寅	2024年3月31日付	小倉インマヌエル教会牧師、八幡聖オーガスチン教会牧師解任。同日をもって宣教協働者契約を終了。
司祭 ダビデ中野准之	2024年3月31日付	定年により退職とする。
司祭 ダビデ中野准之(退)	2024年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもとで大口聖公会嘱託司祭および大口幼稚園チャプレン委嘱。(任期1年)
司祭 フランシス小林史明	2024年3月31日付 2024年4月1日付	宮崎聖三一教会牧師および延岡聖ステパノ教会牧師解任。 小倉インマヌエル教会牧師および戸畑聖アンデレ教会管理牧師任命。(住居は小倉インマヌエル教会)
司祭 マグダラのマリヤ島 優子	2024年3月31日付	戸畑聖アンデレ教会副牧師および厳原聖ヨハネ教会副牧師、八幡聖オーガスチン教会主日礼拝協力解任。

	2024年4月1日付	鹿児島復活教会牧師、宮崎聖三一教会管理牧師および延岡聖ステパノ教会管理牧師に任命。(住居は鹿児島復活教会)
司祭 マルコ柴本孝夫	2024年3月31日付 2024年4月1日付	久留米聖公会教会牧師解任。 久留米聖公会教会管理牧師および宗像聖パウロ教会管理牧師任命。
司祭 バルナバ牛島幹夫	2024年3月31日付 2024年4月1日付	佐賀聖ルカ伝道所管理牧師解任。 佐世保復活教会管理牧師および巖原聖ヨハネ教会管理牧師任命。
司祭 セシリア塚本祐子	2024年3月31日付 2024年4月1日付	直方キリスト教会副牧師解任。 直方キリスト教会牧師、八幡聖オーガスチン教会主日礼拝協力任命。
執事 ダビデ佐藤 充	2024年3月31日付 2024年4月1日付	福岡ベテル教会主日礼拝協力解任。 佐賀聖ルカ伝道所主日礼拝協力および巖原聖ヨハネ教会主日礼拝協力任命。
主教 ルカ武藤謙一	2024年3月31日付	戸畑聖アンデレ教会管理牧師、直方キリスト教会管理牧師、鹿児島復活教会管理牧師、宗像聖パウロ教会管理牧師、巖原聖ヨハネ教会管理牧師、および佐世保復活教会管理牧師解任。
	2024年4月1日付	八幡聖オーガスチン教会管理牧師、大口聖公会管理牧師、および佐賀聖ルカ伝道所管理牧師任命。
司祭 テモテ山崎貞司(退)	2024年4月1日付	管理牧師主教武藤謙一のもと大分聖公会嘱託司祭および延岡聖ステパノ教会主日礼拝協力委嘱。(任期1年) 聖公幼稚園チャプレンは継続。
司祭 ステパノ中村 正(退)	2024年4月1日付	管理牧師司祭バルナバ牛島幹夫のもと佐世保復活教会嘱託司祭および佐賀聖ルカ伝道所主日礼拝協力委嘱。(任期1年)
司祭 キャサリン吉岡容子(退)	2024年4月1日付	福岡聖パウロ教会主日礼拝協力および久留米聖公会主日礼拝協力委嘱。(任期1年)
司祭 ダビデ中島省三(退)	2024年4月1日付	鹿児島復活教会主日礼拝協力および宮崎聖三一教会主日礼拝協力委嘱。(任期1年)
司祭 パウロ濱生正直(退)	2024年4月1日付	福岡ベテル教会主日礼拝協力委嘱。(任期1年)
<信徒奉事者認可および分餐奉仕協力許可>	2024年1月1日付(任期1年)	
(福岡聖パウロ教会)		有村元伸、酒井健、園木一男、下村仁士
(小倉インマヌエル教会)		東美香子、石垣献、河原忍、金野実加枝、櫻井隆一
(鹿児島復活教会)		大内新子、岡積丈夫、川崎祐子、古城順子、森田誠也
<信徒奉事者認可>	2024年1月1日付(任期1年)	
(福岡ベテル教会)		簗田紘子
(久留米聖公会)		真木信行

(佐賀聖ルカ伝道所) 佐藤群  
 (熊本聖三一教会) 秋山みどり、島卓郎  
 (大分聖公会) 古澤正之、小河正雄

### 《教会・施設》

浜松聖アンデレ教会(横浜) 住所変更 (新) 静岡県浜松市中央区山手町6-14

## あなたが選ぶ 2023年 日本聖公会管区10大ニュースは ?

(2022年12月～2024年1月)

2023年の前半はコロナ禍を引きずっていましたが、後半は前向きに活動が再開されるようになりました。この一年間の管区関係の主な出来事を書き抜いてみました。それぞれのお立場から、ほかの事柄をも加えて〔 〕内に○印を付し、2023年「日本聖公会の10大ニュース」を選ぶ参考としてください。

(広報主事)

- 〔 〕 2022年「各教区人権担当者の集い」を開催 ―横浜・寿町の現実に触れる―  
(2022年12月8日～9日)
  - 〔 〕 2023年「各教区正義と平和担当者の集い」を開催。(2023年1月10日～11日 web)
  - 〔 〕 聖公会センター(NSKK神楽坂)の収益事業展開に着手。(2023年3月)
  - 〔 〕 ナザレ修女会解散を受けて常議員会のもとに「ナザレ委員会」を設置。(2023年2月)。
  - 〔 〕 「ナザレの家」管理・運営規則など検討・作成(3月～6月)。
  - 〔 〕 ウィリアムス神学館が入学生不在のため入学式を開催せず。(2023年4月)
  - 〔 〕 フランシス長谷川清純師が日本聖公会東北教区主教に就任。(4月22日)
  - 〔 〕 新任「人権」研修会を対面で開催。(5月24日～26日:大阪)
  - 〔 〕 2023「原発のない世界を求める週間 ―祈りのリレーとオンライン講演会―」を開催。  
(6月4日～)
  - 〔 〕 「ナザレの家」の鍵の引き渡し式。(6月14日)
  - 〔 〕 新管区事務所の祝福式(6月15日)と管区事務所の移転。(6月22日)
  - 〔 〕 2023年「沖縄週間/沖縄の旅」を4年ぶりに対面で開催。(6月23日～25日)
  - 〔 〕 「日本聖公会2023全国青年大会 in Tokyo」を7年ぶりに対面で開催。(8月31日～9月3日)
  - 〔 〕 「関東大震災100年」にあたり超教派で追悼礼拝を行なう。(9月3日、東京教区は9月2日)
  - 〔 〕 東京教区と大阪教区が教区設立100周年を記念。(東京11月3日・大阪6月11日)
  - 〔 〕 日韓協働合同会議を開催、済州友情教会聖別式に出席。(9月18日～21日:済州島)
  - 〔 〕 2023年「日本聖公会人権セミナー」を対面で開催。(10月2日～4日:京都)  
・テーマ「どこにいるのか―自分の立ち位置を問い直す―」
  - 〔 〕 2023年「日本聖公会宣教協議会」を対面で開催。(11月10日～13日:清里)  
・テーマ「いのち尊厳限りないもの ―となりびととなるために―」
  - 〔 〕 「各教区財政担当者連絡協議会」を対面で開催。(12月1日～2日:ナザレの家)
  - 〔 〕 「各教区青年担当者の集い」を対面で開催。(2024年1月7日～8日:ナザレの家)
  - 〔 〕 「各教区正義と平和担当者の集い」を対面で開催。(1月11日～12日:ナザレの家)
  - 〔 〕 ハラスメント防止・対策研修会・中日本①(1月18日・web)
  - 〔 〕 ハラスメント防止・対策研修会・西日本①(1月26日・web) 以下順次、合同教区ごとに
- ※私としては、次の事項を追加します。
- 〔 〕
  - 〔 〕

## 2023年 財政担当者連絡協議会を終えて

豊かな情報交換から共有した

当面する課題の確認と対応

### 管区事務所財政主事 セシリア 鈴木裕子

2023年12月1日(金)～2日(土)、4年ぶり対面での「2023年財政担当者連絡協議会」が開催されました。会場は三鷹の「ナザレの家」。今年春にナザレ修女会から管区に移譲され「ナザレの家」と名称を改めました。緑に囲まれた厳かな気品ある建物の一角、会議室で1泊2日の熱い会議が繰りひろげられました。

武藤謙一首席主教ご臨席のもと、北海道から沖縄まで各教区の財政担当者と管区主事・主査、そして今年度から管区顧問会計士・税理士としてお働きいただいている田中義幸氏の陪席の総勢27名のご参集をいただきました。

昨年11月の管区事務所だよりでお伝えした「管区の財政をめぐる問題・課題」の続編として今回は各教区現場目線での「教区の財政をめぐる問題・課題」の情報あるいは解決策の交換からスタートいたしました。事前にテーマを絞ってアンケートを実施し、すべての教区から丁寧な報告を戴き、冊子としてお配りしていたことも効を奏して、充実した協議会になりました。

開会にあたり、武藤謙一首席主教からは労いのお言葉をいただきました。

「みなさん、各教区での宣教、財政、牧会へのご奉仕をありがとうございます。管区の方々もご協力をありがとうございます。信徒数が減り教役者も神学生も少なくなっているこの厳しい現状のなかで、小さくても、主イエスの福音を宣べ伝え、人々に仕えていく為にいま私たちに出来ることは何だろうか?を考えます。そして厳しい財政

のなか、各教区の宣教を支える尊い働きを担う皆様がこの機会に、普段の喜び、苦労を分かち合うために大いに語っていただきたい。今回の話し合いを通して、助け合いの関係づくりを目指したいと思います…」

#### 1日目

各教区情報交換 「何とかしなくては…」

その① 各教会からの分担金について

「とりたて!」という言葉も飛び出しましたが(笑)、各教会の財政事情は厳しい!のひとことにつきました。コロナ禍による直接的な影響は減ったものの信徒の高齢化、減少による献金への影響は避けられない状況です。分担金の一律減額、一部免除、「援助教会&補助教会」制度による教区分担金の互助体制、収益事業による補填体制、資金からの繰入等、知恵を絞っての対応が続いていますが、今後、宣教協働に向けて「何とかしなくては」なのです。

その② 教役者給与について

「教役者給与」は殆どの教区で会計支出の大半を占めています。収益事業による補填のほか、「牧会協力資金」、「牧会活動維持資金」「牧会支援金」等で広く信徒からの募金による補填、出向やチャプレン給等による教役者給与以外の報酬等での充当、または信徒の献金は教役者給与にのみ充当する体制、としている教区もあります。但し収益事業を持たない教区が半数以上のため、教区財政における教役者給与も、宣教協働に向けて「何とかしなくては」なのです。



## その③ コロナ禍のその後について

コロナ禍による財政への直撃はかなり落ち着いてきて、会議も対面が増えて移動も回復傾向ですが、信徒の高齢化は止まることではないので間接的ダメージは計り知れず、こちらも宣教協働に向けて「何とかしなくては」なのです。

## 2日目

朝の祈り 宿泊された方と共に礼拝堂で朝の祈りをお献げしました。

聖歌 506番「主はいのちを」

2日目は主として【今年の財政トピックス】のご報告とその質疑を行ないました。

## その① 管区一般会計決算報告と収支予想

- \* 2022年度決算:ほぼ前年通りとなりました。  
コロナ禍特別協力金及び一部特別献金「生野センター」「神学校」への補填(例年並みに)、教役者給与支援金の算定と送金(下位2教区)、聖公会年金の経過的減額支給額による送金などです。
- \* 2023年度収支予想及び補正予算:ナザレ修女会解散時の残余財産の寄付による特別会計の新設(ナザレ会計)及び関連諸経費科目を追加致します。

## その② 年金支給額の減額による支給開始。

また年金加入資格の拡大とそれに伴う規程改定の提案

従来の教役者対象から教区・管区職員(希望者)への加入拡大案の提案がありました。年金体制の安定的運用と職員の福利厚生の拡充の面からの提案でした。聖公会独自の確定給付型年金として、確定拠出型年金との違い及びメリットの専門的な説明、質疑がありました。

## その③ 教役者給与支援金の算出方法と管区標準給与について

前総会決議として、タスクフォース提案による管区標準給与(平均値よりも少し下の値)が承認されましたが、今年度算定された支

援金だけでは、十分に充当できないジレンマもみられました。管区標準給与を算定時の参考とするためには、各教区への丁寧なフォローが必要になると思われます。

## その④ 新規収益事業について

管区事務所は隣接する旧バルナバ教会建物を改造して移転し(2023/6)、聖公会センタービルを改修し賃貸ビルおよびマンションとして収益事業をすることになり、現在工事が進行中です。

改修費用は2億4000万円(宣教財政強化資金より2億円、収益事業会計から4000万円)、事業開始時期は2024年4月を予定しています。収益は聖公会年金への拠出金として活用することになります。

その⑤ 管区金融資産運用管理規程について  
管区の総資産の内、有価証券の運用についての規程(2005年制定)を見直しています。過去の仕組債での損失や、ナザレから引き継いだ資産を運用管理するため、タスクとして検討を進め「金融資産運用管理規程」として常議員会に提案します。見直しとして特記することは、仕組債を排除する点です。

## その⑥ 遺贈の留意点、税制改正に伴う留意点

遺贈の一般的留意点は前回も久保田税理士からいただきましたので、今回は具体的なケースでの体験談等を交えてのお話となりました。今後増える可能性もあることから、迅速かつ適切な対応が重要になるとのこと。



公正証書、係争付きの不動産、換金が困難な土地等、個別事情は様々ですが、教区間で共有できる情報を加えて、「財政担当者協議会」編として小冊子を作り各教区に配布してもらいたいとの要望がありました。

その⑦ 田中義幸氏からの感想

「昨今は、長生きによる課題が出てきています。年金の問題はまさにその中心のデリケートな話題でもあります。今回管区事務所の会計に携わることになり、会計が複雑になっていましたので、単純に解りやすくすることを自らの役割としていきたいと思えます。」

15:00 閉会

聖歌418番「だれもひとりだけでは」

祝祷 武藤謙一首座主教

4年ぶり、対面での財政担当者連絡協議会は武藤謙一首座主教の選曲してくださった聖歌を讃美して無事にお開きとなりました。今回のナザレの家での会議の豊かな糧を、各教区、各教会でシェアしていただけますと幸いです。

《すべてのものは 主の賜物 私たちは  
主から受けて 主に献げたのです》

---

---

## 「各教区青年担当者の集い」を開催

—全国青年大会についての意見を交換—

2024/1/7(日)～1/8(月)：ナザレの家にて

管区青年委員会委員長 司祭 ジョイ 千松清美

各教区青年担当者の集いは、毎年1～2回の頻度で青年委員会の主催で開催している。管区および各教区の青年活動報告や情報共有、青年活動の活性化やその課題を話し合う集いである。コロナ禍にあってオンライン会議だったが、昨年の全国青年大会の準備会を除くと宿泊を伴う対面の集いは4年ぶりとなった。

今回は、全国青年大会について協議することに重点をおいた。ただしこの4年間で各教区青年担当者の交代などにより、改めて青年担当者の役割を説明し、その立場を理解する時間をとった。また主題の全国青年大会の経緯と大会の概要や費用などを説明し、次のセッションで話し合う基礎知識とした。青年担当者からは、これまで引き継ぎが曖昧だったが資料として提

供され、伝えようと思っていた内容がすべて書き込まれていて良かった。大会についてのまとめた資料は情報提供としてとても助かるという声があった。

二日目は聖餐式をもって担当者の集いを再開した。まず、昨年8月31日～9月3日東京で開催した全国青年大会についての感想を話しあった。本来2020年開催予定だったが、コロナ禍によりやむを得ず延期をし、7年ぶりの開催となった。また準備段階ではコロナ感染対策が緩和されておらず見通しが難しいため、判断責任が取れる青年委員会が企画、実施をした。この体制は、1992年から続くこの大会において、青年が中心で実施していたことからすると特例の方法だった。感想としては、3年間のコロナ禍によりどの

教区も青年活動が停止され、これまでの青年間あるいは教区と青年間の関係性が途切れ、大会への参加の呼びかけが大変難しく、呼びかけても参加希望の声があまり挙がらないという状況があった。しかし少人数の参加者であっても青年同士のつながりは、この大会を機にできたように思う。他の教区の青年たちと対面で知り合えた嬉しさが青年たちから伝わってきたという感想であった。

二つ目の議題は、今回の大会から「大会ガイドライン」を作成し、初日に説明の時間を十分にとった。このガイドラインについて意見交換をした。ガイドラインの目的は、スタッフを含めた参加者全員が安全、安心にこの大会を過ごすことだった。プログラムの間、宿泊先で、グループで出かける外出のときなど、共有・共同し合う場で互いに気を付けることを説明した。この共通理解により、緊張を強いるものとはならず、とても安心して、自分が受け入れられているという思いが持て過ぎやすかったと青年からの声があった。

青年担当者からは、ガイドラインがあったことは大変良かった。教区の活動の際の参考にしたと思う。しかし青年たちは理解できても落とし込むことができていない部分もあった。その場面ごとに具体的な例を出し、生活の中に適応できるようにする必要はあるという意見があった。また今回含めていない分野もあり、ガイドラインはアップデートしていくものと認識した。

三つ目の議題は、全国青年大会の開催時期や日程について意見交換をした。専門学校生や地域差による休みなど配慮する、社会人にとって平日を含む開催日程は参加に困る、連休を含めて部分参加を可能にする、夏開催は台風や熱中

症などのリスクがあり、2月あるいはゴールデンウィークの開催も検討するなどの意見があった。また夏開催の問題点で、青年たちは教区内のキャンプスタッフなどで忙しいという点がある。各教区の夏の行事の状況を共有したが、ここなら良いという期間設定は難しいと考えた。

四つ目の議題は、実行委員会の持ち方、次回開催地に関して意見交換をした。どの教区も単独で実行委員会を受け持つことは難しく、例えば宣教協働区で引き受けることはできるのではと意見が出た。また開催地について、テーマを決め全体を組み立てる大会が良いと考え、そのテーマから開催地や日程が決められていく過程を大切にしたいと意見が出た。

補足の意見交換として、各教区の参加費および交通費補助の状況を共有した。大会の参加費の内訳に交通費補助が含まれるのかと質問があり、参加費には交通費補助分の上乗せはせず、青年活動資金の大会全体予算の中から支出していると回答した。教区・教会からの補助を青年委員会からはお願いしているため、青年担当者は教区・教会と参加者の間を仲介する役割が大きいと認識し合った。

此の度の青年担当者の集いは全国青年大会についての意見交換を目的とし、青年委員会であつた意見を参考に開催時期・開催地を協議検討し、次回の青年担当者の集いで提案、決定をしていくとした。短い時間であつたが久しぶりの宿泊を伴う対面の集いにより、青年委員・青年担当者の考えや思いがゆっくと語り合えた。個人的にはナザレの家の雰囲気が高く、リラックスした時間の流れを過ごせる集いだったと思う。

#### ■お詫びと訂正

『管区事務所だより』12月号 10頁～11頁に掲載された「聖公会神学校（アジア・太平洋地域）校長会議」の最後のパラグラフの「グローバルゼーション」は、正しくは筆者による造語「グローカリゼーション」(Global+Local の組み合わせ) でした。お詫びして訂正いたします。

(広報主事)

## 「女性に対する暴力を根絶するための祈り」に参加して

— 今日を生きる「自分への問いかけ」として —

### 管区・正義と平和委員会ジェンダープロジェクト クララ 篠田 茜

昨年12月7日、東京教区聖アンデレ主教座聖堂で、「女性に対する暴力の根絶を求めて祈る」礼拝を、女性デスクとジェンダープロジェクト、聖アンデレ主教座聖堂の協働で行ないました。毎年11月25日（女性に対する暴力の撤廃デー）から12月10日（世界人権デー）まで世界の「ジェンダー暴力と闘う16日間キャンペーン」に連帯しているものです。

説教は沖縄教区の西平妙子司祭から、聖書箇所はマルコによる福音書第7章のユダヤ人からは異邦の民であるフェニキアの生まれ、ギリシア人の女が娘にとりついた悪霊を追い出してもらいたいとイエスにひれ伏して頼む箇所です。「主よ、食卓の下の子犬でも、子どものパン屑はいただきます」という心を打つ言葉によって娘は救われます。

西平司祭はまず、今起きているとても大きな

暴力、戦争のただ中にいる人たちの不安や悲しみ、武器を持つことを強いられている人々を覚え、今すぐに戦いが終わることを祈りますと語られました。この福音書の物語は、戦争の中にいる人たちとそうでない人たちとの間にあるような隔たりの中で、その境界線を乗り越えた女性の話であると言われました。

今の時代、自分の周りには境界線は無いと思っている人、思わされている人、場所によって違うと思っている人などいろいろですが、イエスの時代には厳然と見える形でありました。異邦人であり、女であり、寡婦であったであろうこの女性が、イエスの前に出るにはどんなに勇気が必要だったことでしょうか。が、その勇気で境界線をひとつ乗り越えました。イエスの「子どもたちのパンを取って、子犬に投げてやるのはよくない」という、言われた側は怯んでしまいそうな返事に



も、女は「子犬」という蔑みの言葉で、逆にその存在をイエスに訴えます。また「パン屑」も「パン」であり、「パンが一つであるからわたしたちは多くいても、一つの体です」という陪餐のときの言葉を想起させると言われます。

女性がひとつずつ境界線を乗り越えていく姿は、今のあなたであり、わたしである、自分の中にいるこの女性の姿に目をつぶったり、それを追い出したりしてはいないでしょうかという問いかけは、境界線を乗り越えるのは大変な重荷だったりエネルギーが必要なもので、もう見たくないと思うことのある自分への問いかけでした。

女性は悪霊を追い出された娘を抱きかかえ、その後もともに生きていったことでしょう。

イエスが境界線を越えるよう女性に力を与えられ、娘と生き続けていくことを示されたことを思うとき、これは実に最初からわたしたちをエン

パワーしてくれる物語であり、わたしたちも今日も明日も自分の道を進んでいかななくてはならないと思われました。

この日の献金は「パレスチナ子どものキャンペーン」の活動にささげられました。

\*（礼拝の様子は、東京教区聖アンデレ主教座聖堂ホームページから見ることができます。ぜひご覧ください。）<http://www.anglicanecathedral.tokyo>

A vertical poster with a winter theme. The background is a soft, blue-toned illustration of a snowy landscape with rolling hills and a large, dark, leafless tree on the right. A small green bird is perched on one of the tree's branches. The text is overlaid on the image in white and yellow. The title 'ハンセン病問題 啓発の日' is at the top, followed by the date '2024.02.04' and '顕現後第5主日'. A quote from the Bible is in the middle, and the publisher '日本聖公会' is at the bottom right.

ハンセン病問題  
啓発の日  
2024.02.04  
顕現後第5主日

今日、私があなたの命を重んじたように、  
主も私の命を重んじ、  
あらゆる苦難から私を救ってくださいますように。  
(サムエル上26:24) 聖書協会共同訳

日本聖公会

## 「日本聖公会緊急災害援助募金」の受入と送金先について（報告）

期間：2023年1月1日～12月31日

皆さまから管区へお献げいただいた災害被災者や難民救援のための募金は、緊急援助を必要とする地域への支援のためにお預かりしています。日本聖公会では「緊急災害援助資金」を設け、国内外からの救援要請に迅速に対応するための体制を整えています。今後もご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### ◆管区事務所へお寄せいただいた援助募金（のべ156団体・9名）：

ウクライナの人々のため（12件）	413,735円
パキスタン洪水被害のため（2件）	70,000円
緊急災害援助のため（5件）	267,187円
トルコ・シリア地震被災者支援のため（122件）	5,221,027円
パレスチナ／アル・アハリ病院支援のため（24件）	1,056,006円



### ◆管区からの各団体への送金：

2月28日	トルコ・シリア地震被災者支援 ※管区緊急災害援助資金から送金	NCC 日本キリスト教協議会 (ACT ジャパンフォーラム)	500,000円
2月28日	トルコ・シリア地震被災者支援 ※管区緊急災害援助資金から送金	WCRP (世界宗教者平和会議) 日本委員会	300,000円
8月16日	トルコ・シリア地震被災者支援	NCC 日本キリスト教協議会 (ACT ジャパンフォーラム)	1,000,000円
9月11日	トルコ・シリア地震被災者支援	米国聖公会 ERD (Episcopal Relief & Development)	2,054,374円
12月22日	パレスチナの人々のため	パレスチナ子どものキャンペーン (認定 NPO 法人)	500,000円
12月22日	パレスチナの人々のため	アハリー・アラブ病院を支援する会 (ガザ地区聖公会系病院の支援団体)	500,000円
12月22日	ウクライナの人々のため	USPG (英国, United Society Partners in the Gospel)	300,000円
12月22日	トルコ・シリア地震被災者支援	NCC 日本キリスト教協議会 (ACT ジャパンフォーラム)	750,000円

※これからも随時送金を行なって参ります

## 世界の聖公会の動向

- ☆ 同性カップルが、英国聖公会において初めて祝福を受ける
- ☆ ハワイ教区主教が、山火事への支援に感謝を表明
- ☆ カンタベリー大主教が、マイケル・ラムゼイ賞の受賞者を発表

### 管区事務所渉外主査 司祭 ポール・トルハースト

#### ○ 同性カップルが、英国聖公会においてはじめて祝福を受ける

英国聖公会では昨年12月17日から同性カップルが祝福を受け始めたが、依然として結婚は認められていない。長年議論されてきたこの妥協案は、保守的な人々は行き過ぎだと主張し、より進歩的な人々は不十分だと主張する。

英国聖公会とアングリカン・コミュニオン全体の意見の対立がすぐに解消される見込みはないが、少なくともこの日は、初めて聖職者から祝福を受けたカップルにとって、LGBTQ+が完全に受け入れられる小さな一歩となった。

12月17日にサフォーク州の洗礼者聖ヨハネ教会での聖餐式で、キャサリン・ボンド司祭とジェーン・ピアース司祭を含むカップルたちが、初めての祝福を受けた。

祝福を授けたアンドリュー・ドッチン司祭は、「喜びと希望のうちに、生涯にわたって2人の愛が続きますように」と祈った。

その翌日の12月18日、カトリックの司祭による同性カップルの祝福を教皇フランシスコが認めたと、バチカンの発表があった。カトリック教会にはゲイとレズビアンのカップルが結婚するための典礼儀式はまだないが、今回の教皇の決断はLGBTQ+の人々の迎え入れが遅れ、結婚は男女間に限ると主張してきた宗派にとって、重要な一歩とみなされた。

英国国教会の祝福は、「愛と信仰に生きる」と呼ばれる6年間の取り組みの集大成として、2023年2月の総会で承認された。それ以降、教会指

導者グループが集まり、感謝と献身を表す朗読と祈りの抜粋を作成し、当月の主教によって承認された。

英国聖公会の聖職者は、決して祝福することを強制されるわけではない。カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師は、個人的には同性カップルを祝福するつもりはないと述べているが、LGBTQ+の人々を広く受け入れようとする寛大な姿勢は、英国聖公会と同じルーツを持つアングリカン・コミュニオンの他管区との深い溝となっている。

米国聖公会を含む一部の管区では、教会での同性カップルの結婚を認めているが、他のほとんどの管区ではそうではない。

英国では2014年から同性婚が民法で認められ、大多数の国民に支持されているが、英国聖公会の教会では今も認められていない。

保守的な聖公会の主教たち、特にグローバル・サウスと呼ばれる地域の主教たちは、この祝福に強く反発している。英国聖公会のこうした動きに対して、聖公会の歴史的な“一致の焦点”としてのウェルビー師の役割を、もはや受け入れることはできないと述べている。

#### ○ ハワイ教区主教が、山火事への支援者に感謝を表明

2023年夏、マウイ島ラハイナのホーリー・イノセント教会では100人以上が犠牲となり、数百の建物とともに全焼した一連の山火事があり、教区主教のロバート・フィッツパトリック師は先日の所

管の中で、ハワイ教区には100万ドル近い寄付が世界中から寄せられていると述べた。

「町全体が壊滅的な被害を受けたため、ホーリー・イノセンツ教会の再建は何年も先になりそう」、ハワイ教区の直近の課題はマウイ島の住民と島にある4つ教会の支援であると繰り返した。

また、フィッツパトリック主教は、「心より感謝いたします。みなさんの連帯と祈りこそが、最高の贈り物です。この数ヶ月間、ハワイに住む私たちは互いの必要性和神の愛への信頼を思い知らされました。」と述べた。

8月8日から11日にかけて、マウイ島各地で発生した山火事により、32,000人以上の住民と観光客が避難した。最も被害が大きかったのはマウイ島西部のラハイナで、1927年以来ホーリーイノセントが建っていた場所である。マウイ島の山火事は、150人以上の死者を出し、1946年の津波以来、ハワイで最も大きな自然災害となった。

### ○ カンタベリー大主教が、マイケル・ラムゼイ賞の受賞者を発表

このほど、フレデリック・クリスチャン・バウアーシュミット著の『愛という神—キリスト教信仰への招待(The Love That Is God: An Invitation to the Christian Faith)』が、カンタベリー大主教によって2023年マイケル・ラムゼイ賞に選ばれた。本書は神こそが愛であるという考えを探求し、この根本的な主張がいかにイエスの教えの中心であるかを論じている。

他に最終候補として挙げたのは、次の著書である。チャイン・マクドナルドの著の『神は白人男性ではない—その他の啓示 (God is not a White Man: And Other Revelations)』は、白人が多数を占める英国の教会で、黒人女性とし

て過ごした経験を語り、人種的な不公平について緊急の問題を提起している。エイミー・オア・ユース著の『あらゆる苦しみの中で神はどこにいるのか? (Where is God in all the suffering?)』は、個人的な体験談と神学的分析を通して、痛みと信仰の関係を取り上げている。

今回の受賞作について、ジャスティン・ウェルビー大主教は、「キリスト教信仰の中心を体現したこの本に、賞を授与できることを嬉しく思う。バウアーシュミット氏が巧みに解き明かしているように、『神は愛である』は、私たちが深く神のみ腕の中へ、そして外に向かって他者を愛するように駆り立てる、時代を超えたメッセージである。」

バウアーシュミット氏は、「執筆中は何を言いたいかだけでなく、どのように伝えたいかについてもよく考えた。幅広い読者に向けて、単純化せず、見下したようなトーンでもないものを書きたかった。ラムゼイ賞の受賞は、親しみやすく、かつ教会生活に役立つ本をしっかりと記せたということで、本当に嬉しく思う。」

2023年の審査委員会委員長であるポーラ・グッダー氏は次のように述べている。「この本は、神が愛であると信じる者として生きるとはどういうことなのか、私たちの想像力をかき立てるもの。愛を出発点、中間点、終着点として用い、シエナのカタリナからドロシー・デイまで、ジョン・クリュソストムからマーティン・ルーサー・キング Jrまで、キリスト教に関する最高の作家たちをめぐる旅に私たちを連れ出し、神の愛の神秘に新たな光を照らしている。」

2007年に始まったマイケル・ラムゼイ賞は、教会全体で最も有望な現代の神学的著作を称えるもので、カンタベリー大主教によって授与される。





## 寄稿

## 定住牧師のいない教会（信徒も担うチームミニストリー）

— 2023年のヒルダミッシェル信徒講座から —

渋谷聖公会聖ミカエル教会 パトリック 山田益男

日本聖公会の教会においては、働き人は聖職であって、信徒は聖職に養われる存在として受動的な立場をとってきた。聖職の数が減少し、定住牧師が不在の状況下で起きている現象をみてみれば、

1. 聖公会が大事にしてきた主日の聖餐式が維持できない。
2. 中心にいて信徒達の結びつきを担ってきたキーパーソンが不在のため、信徒の動向がつかめず、信徒の交わりが疎遠となりがちになる。（高齢者／病者の訪問など）
3. 平日教会を訪れる人をはじめとする求道者への対応、洗礼への準備が行き届かない。
4. 教会事務（教籍簿の記載・管理、礼拝日誌の記録、統計表の記載等）を担う者がいないため、管理牧師に過度の負担をかけている。

この状況の解決策を検討するため、2023年のヒルダ・ミッシェル信徒講座（渋谷聖公会聖ミカエル教会主催）では新たな働き人として特任聖職、信徒奉仕職を想定しつつ受講者と共に考える企画を行なった。この問題は教区を超えて深刻な問題であるため、東京教区だけでなく沖縄教区、九州教区、東北教区からの受講参加者があった。この講座では、ヒルダ・ミッシェル叢書2のジョン・リーズ著・中原康貴翻訳「自給している聖職者たち」を基本テキストに、ヒルダ・ミッシェル叢書3の山田益男著「信徒の働き」と中村真希研究論文「チームミニストリーの実践と可能性」をテキストにし、とくに、英国聖公会における特任聖職の働きとパリッシュチャーチのグループ化とチームミニストリーの報告から、日本聖公会における新たなミニストリーの方向性を学んだ。

この状況の下、日本社会にあって教会が教会としての機能を維持し、発展してゆくためには、第1に教会組織の変革、第2に新たな働き人の養成、この課題をセットで考えることが必須と思われるので、その具体策を提案したい。ただ、この提案全文は字数の関係から本誌に掲載することは無理があるため、今回は概要を掲載して頂き、下記に示す私共の教会のホームページに掲載する本文にアクセスして頂くことで、具体的な提案をさせて頂きたい。これをたたき台にいただき、各教区において教会の現場が直面している現状に注目し、聖職・信徒皆が本気でこの問題を考えて頂きたいと願うものである。

## 1. 教会組織の変革

1教会に1牧師という体制が崩壊し、一人の専門聖職が複数の教会の牧会を担わなければならない現状では、複数の教会をグループ化（教会群）し、管理せざるを得ないが、一人の聖職がすべての教会のミニストリーを担うことは無理であるから、その教会群を一人の専門聖職を中心に新たな働き人を加えたチームで運営することが必要となろう。また、現在は3つの宣教協働区を設置し、将来的に教区統合・再編成が指向されているが、教区域が広がり、教会数が増加することを踏まえた教区組織を考える必要がある。

定住聖職が不在の状況で各教会がエクレスシア（呼び集められた者の群れ）として機能するためには、中心におられて信徒をつないでいた牧師に代わる存在がどうしても必要となる。各個教会には新たな働き人として所属する信徒の状況を一番把握している信徒に「牧会補助者」となってもらい、その役目を担ってもらい体制の整備が基

本となる。

#### 教会群会議

教会群組織を機能させるために教会群会議を設置する。開催は教会委員会よりも頻繁に月2回程度とする。会議の構成メンバーは、教会群に所属する専門聖職と協働している退職聖職、特任聖職そして各個教会の牧会補助者（信徒奉仕職）で構成する。この会議では上記の牧会対応のほか、各個教会の活動情報の共有と教会群レベルでの活動の企画を担う。各教会の状況を把握しているのは牧会補助者で、教会群の働きの基礎となるので、教会群を機能させるためには、まず牧助補会者の養成が急務となろう。

#### 教会群代表者会議

将来、宣教協働区の中で教区の統合がすすみ、教区規模が大きくなれば、一人の主教が全教会の状況を把握することはより難しくなるであろうから、中間管理を担う教会群代表者を立ててその方々の会議を設置し、主教の教区運営・牧会を支援する必要がある。規模の大きい外国の教区では教区主教のほか補佐主教やアーチディーコンといった教区行政を担うスタッフが揃っているが、日本聖公会ではその体制をとることは難しいと思われるので、教会群代表という中間管理者を想定した。

## 2. 教会群を機能させる新たな働き人を加えたチームミニストリー

複数の教会をまとめた教会群単位での教会活動を担うため、現在の専門聖職と退職司祭に新たな働き人として特任聖職と信徒奉仕職を加えたチームミニストリーを想定するが、現在のところ、特任聖職と信徒奉仕職が育っているわけではない。まず、教区は新たな奉仕職にどのような働きを任せ、その担い手をどのようにして養成するか各教区の状況を踏まえて、神学校と協議するなどしてその育成システムを検討する必要がある。また、教会群をまとめる牧師は原則専任

聖職がよいとして、礼拝、信徒の牧会、外部宣教の分野について新たな奉仕職を整え、チームとしてその任をどのように分担するかを検討する必要がある。

チーム・ミニストリーを担う特任聖職と信徒奉仕職をどのようにして育成するかを考えたい。現在聖公会神学院では本科のほかに「特任聖職特別コース」と「信徒の奉仕職・召命コース」が、ウィリアムス神学館では伝道師養成、「信徒の奉仕職」養成等のカリキュラムが準備されている。特任といえども司祭職は司祭職、執事職は執事職であるから、それなりの素養を養わなければならないという意図は十分に理解するが、広く働き人を養成することが求められている現状を考えると、これはいささかハードルが高いと思われる。専門聖職は総合職として司祭職のすべてを担うことが求められるが、いま、教会の現場が最も必要としている主日の説教と聖餐を可能にし、信徒の交わりを回復させるキーパーソンを得るためにはその働きに特定した専門職としての聖職を養成してもよいのではないか。チームミニストリー体制であれば、各自が自分にできることを担い、協働することが可能となるはずである。

次に、特任聖職とやらなくてもできる信徒奉仕職としての奉仕について考えたい。教会の働きは多様であり、 sacramentの執行など聖職者でなければできないこともあるが、信徒にもできることは無限にあるといっても過言ではない。各教会の交わりのキーパーソンとしての役割を担う牧会補助者、教会の留守番、求道者の対応とかはハードルが高いと思われる方もおられようが、教会の奉仕は多様である。教会行事の案内を印刷し発送する作業とか、教会施設の清掃とか、特別な技能がなくてもできる奉仕もあるし、どなたでも参加できる祈りの奉仕もある。

1994年に発表された「日本聖公会の現状および将来に関する主教会の見解」には今日の教会

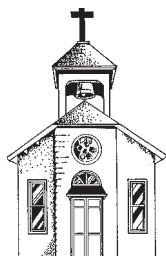
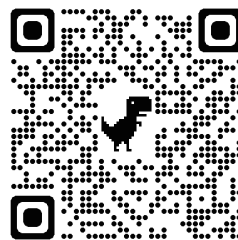
状況を予測し、その対応について示唆されていた。また、教区再編成の問題についても1974年の第33定期総会で「日本聖公会教区制問題研究委員会」が、日本に於ける宣教体制を整えるには単なる教区線引き図案の提出では教区制問題の解決にはならず、「宣教理念」、「教会の体質改善」に踏み込まなければ不可能であると検討結果を報告している。教会の課題について本質的な指摘が、以前から先人たちによってなされていたにもかかわらず、日本聖公会の中でその意識が浸透してこなかったことは大きな反省点であろう。

今年のヒルダ・ミッシェル信徒講座に参加してくださった方々は、牧師中心の教会体制が崩壊しつつある状況の中で、自分達信徒にできることは何かを一生懸命に考え、祈っておられることが強く感じられた。少数とはいえ、このような気持ちの信徒が日本の各地にいるということは大きな希望につながるといえよう。専門聖職と特

任聖職そして働き人としての信徒奉仕職からなる構成、さらには全員参加のチームミニストリーを機能させて現代社会にある教会として機能する「明日の教会」の形成につなげたいと願うものである。

以上

「定住牧師のいない教会」全文へのアクセス情報：渋谷聖ミカエル教会ホームページ<http://Shibuya-michael.com> コラム欄



#### 《お詫びと訂正》

・『聖公会手帳 2024』の訂正について：

P.204「聖公会組織図」の下段、会計監査委員（長）塚田一宣さん、文書保管委員（長）大江満さんの名前の上の「主・」を除いてください。

・『聖公会手帳 2024』の不良品について：

\*『聖公会手帳 2024』大判 P.387の一部に製本時のミスによる不良品が生じました。

\*『聖公会手帳 2024』小型判の一部にカバーの破損品が配本されてしまいました。

いずれも印刷・製本工程上のミスによるもので、お詫び申し上げます。不良品は交換させていただきますので、お手数をおかけしますが、日本聖公会管区事務所宛にご連絡ください。

日本聖公会管区事務所：問合せ電話番号 03-5228-3171



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>  
☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。  
comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木 一)宛て